業務用製氷機 55 kg
取扱説明書

冷蔵庫・冷凍庫・製氷機ストッカーレンタル専門店

笑顔のバトンタッチ
上州物産株式会社

〒３７９－２１６６
群馬県前橋市野中町３６９－２
TEL：０２７－２８９－６０８０
FAX：０２７－２８９－６１６６
緊急連絡先：０８０－５６４３－７１８１

冷凍庫・冷凍/冷蔵ストッカー専門店ホームページへアクセス
する場合はこちらの QR コードを読み込んでください。

目次

はじめに下記備品が揃っているかご確認ください.....1
【初期設置手順】給排水ホース接続.....3
メーカー取り扱い説明書
返却時の梱包方法.....5
据付工事を水道会社に依頼した場合の返却方法.....9
梱包時 PP バンドの使用方法.....10

はじめに下記備品が揃っているかご確認ください

スコップ × １

ホースバンド×３

マイナスドライバー × １

エアーポンプ × １

野外使用に関する注意点

業務用製氷機を屋外で使用される場合はテントなどの直射日光をさえぎれる設備の下で使用してください。
また雨天時や湿度が非常に高い場合には屋外では使用しないでください。故障の原因となります。

周囲が 0℃以下になる環境で使用する場合の注意点

周囲温度が 0℃以下になる環境で製氷機を使用する場合、下記の使用方法を守って下さい。下記の使用方法を守らずに製氷機が故障してしまった場合、修理代をいただきます。

1. 電源を切り、長時間製氷機を使用しない場合、必ず水抜きを行ってください。水抜きを行わないと給水管が凍結し、故障してしまうことがございます。
2. 庫内の氷がいっぱいになり、さらに長時間、氷が消費されない状況の場合、製氷機の電源を切り水抜きを行ってください。長時間製氷作業が行われないと、電源が入ってたとしても給水管の水が凍り、製氷機が故障してしまうことがございます。

※水抜きの方法は、取扱説明書の「返却時の梱包方法」を参照してください。

【初期設置手順】給排水ホース接続

製氷機を使用するには、給排水ホースを製氷機に接続する必要がございます。その手順を解説し ていきます。

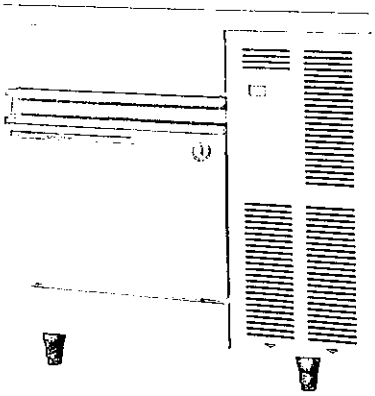
1		ー 任意の長さの ー給水用ホース×１ ー排水用ホース×１ を準備して下さい。 ※当店より、高機能ホースを購入された場合は、任意の長さでホースを切ってください。 【給水用ホースの長さ】 水道の蛇口から製氷機設置場所までの距離より長くする 【排水用ホースの長さ】 製氷機設置場所から排水場所までの距離より長くする ※傾斜のない場所に排水用ホースを置く場合、排水用ホースの長さは、2m 以下にしてください。水が逆流することがあります。
2		ー 給水用ホースを蛇口に取り付け、マイナスドライバーでホースバンドをきつく締めてください。
3		・給水用ホースを製氷機の吸水接続口に取り付け、マイナスドライバーでホースバンドをきつく締めてください。同様に排水用ホースを製氷機の排水接続口（本体底面）に取り付けてください。

HOSHIZAKI

全自動製氷機

IM-55TM-2,65TM-2

取扱・据付工事説明書



IM-55TM-2

このたびは、ホシザキ商品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございました。

●この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みになり十分に理解してください。

●お読みになったあとはいつも手元においてご使用ください。

●保証書をお受け取りください。

L1M089-01
2103

もくじ

お使いになる前に

重要なお知らせ……2
安全上のご注意……4
■安全装置
■PLラベル（警告）の貼付位置
各部のなまえとその働き……8
■操作パネル
付属品・オプション……10
お使いになる前に……11
■据付工事終了時の確認
■運転前の確認

運転・停止のしかた

運転のしかた……12
■運転の手順
■フロントカバーの取り外し
■自動製氷について
■氷穴サイズの変更
■断水のとき
停止のしかた……16
■停止の手順
■水抜きのしかた

お手入れと点検

お手入れと点検……18
■サービスマンによる安全点検のおすすめ
■点検・交換時期目安
■お手入れのしかた
■毎日のお手入れ
■1週間に1回のお手入れ
■1か月に2回のお手入れ
■1か月に1回の点検
■1年に1～2回の点検
■消耗品・定期交換部品
長期停止……22
■長期停止の手順
アフターサービス……23
■保証書（ホシザキ販売会社発行）
■補修用性能部品の保有期間
■修理を依頼されるとき
■ネームプレート貼付位置
■保証とサービス

修理・仕様・アフターサービス

修理を依頼される前に……25
■動作の異常
■警報表示
仕様……27
■仕様
■外形寸法
お手入れガイド……28

重要なお知らせ

■ 食品衛生法に基づく食品等事業者の法的責務

食品衛生法により、食品等事業者は自らの責任において食品の安全性を確保するよう求められています。
製品の安定した性能維持のために毎日の点検・清掃を行い、衛生的にお使いください。

■ フロン排出抑制法に基づく法的責務

フロン排出抑制法により、業務用冷凍空調機器（第一種特定製品）の管理者（所有者または使用者）は、主に、以下の適正管理が求められています。みだりにフロン類を大気中に放出した場合、罰則が適用されます。

1. 四半期に１回以上、冷媒漏えいの兆候の有無（冷え具合や氷の出来、配管の腐食など）を、管理者が自ら目視確認できる範囲で点検すること。
   一定規模以上の製品（電動機の定格出力が 7.5 ｋW以上）のみ、１年に１回以上、専門知識を有する者による点検が必要です。
2. 点検時の冷媒漏えいの兆候の有無、及び故障が発生した時の整備結果記録を設置から廃棄後３年間、あるいは譲渡するまで保存すること。
3. 廃棄する場合は、都道府県知事の登録を受けた第一種フロン類充填回収業者にフロン回収を依頼し、その費用を負担すること。なお、フロン類の引取証明書（原本）は３年間保存すること。

＊フロン排出抑制法の詳細については、各都道府県の窓口へお問い合わせください。

また、点検方法などについては、最寄りのホシザキ販売会社までお問い合わせください。

■ お客様の個人情報に関するお取り扱いについて

ホシザキ株式会社およびホシザキグループ関係会社（以下「当社」）は、お客様よりお知らせいただいたお客様の氏名・住所などの個人情報（以下「個人情報」）を、下記のとおり、お取り扱いします。

1. 当社は、お客様の個人情報を、当社製品のご相談への対応や修理およびその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
2. 当社は、お客様の個人情報を、下記の場合を除いて第三者への開示・提供はいたしません。
   ・修理やその確認業務を当社の協力会社に委託する場合
   ・法令に基づく義務の履行または権限の行使のために必要な場合
   ・その他正当な理由がある場合
3. 当社は、お客様の個人情報を、適切に管理します。

お客様の個人情報に関するお問い合わせは、裏表紙に記載のご相談窓口にお願いします。

■ 商標または登録商標について

この取扱説明書に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

■ 移設・廃棄・譲渡について

- この全自動製氷機ＩＭシリーズ（以下「製品」）は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での規格などの適用・認定などは実施していません。この製品を国外へ持ち出し、使用した場合、事故などによる補償の問題が発生することがあっても、当社は、直接・間接を問わず、一切の責任を負いません。
- この製品を移設する場合は、専門業者か裏表紙に記載のご相談窓口にご相談ください。
  据付不備があると水漏れ、感電、火災などの原因になります。
- この製品を廃棄する場合は、専門業者か最寄りのホシザキ販売会社にご相談ください。
  不法投棄すると、罰則が適用されます。また環境破壊の原因にもなります。
- みだりにフロン類を放出した場合、罰則が適用されます。
  廃棄・整備するときは、第一種フロン類回収業者に回収を依頼してください。（第一種特定製品）
- そのまま放置すると、幼児などがドアで手をはさんだり、ケガする原因にもなります。
- この製品を転売・譲渡する場合は、新しい所有者に正しくお使いいただくため、この取扱説明書を製品本体の目立つところにテープ止めして渡してください。また、添付されているすべてのもの（保証書、付属品）を、新しい所有者に渡し、転売（または譲渡）した側は、一切の複製物を保持しないでください。
- この製品を転売・譲渡する場合は、新しい所有者を裏表紙に記載のご相談窓口にご連絡ください。

■ 使用目的・用途について

- この製品は、水から氷を作る自動製氷機です。それ以外の用途に使用しないでください。
- この製品は、業務用として作られています。家庭用には使用しないでください。
- 事故を防止するため、本来の使用目的以外の製品の使用やこの取扱説明書に記載している以外の運転・保守作業はおやめください。

■ 取り扱い上の注意

- 当社は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、製品を改造・乱用・誤用したり、あるいは運転・保守作業に当たり、通常払うべき注意または用心を怠って生じた損害ならびに傷害に対しては一切責任を負いません。
- 当社は、この製品の取り扱い上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、すべての危険を取扱説明書や製品に貼り付けているPLラベルで伝えることはできません。事故を防止するため、製品の運転・保守作業を行う場合は、この取扱説明書やPLラベルに記載の指示事項だけでなく、十分気を付けてください。
- 製品の性能、故障および耐久性は、日常の取り扱いや整備によっても変わります。
- 氷を食品としてご使用になる場合、製氷機を衛生的に保つため、日常の管理、点検が重要です。製氷機を長時間ご使用になりますと、温度、水質などの使用環境と経年変化により、水垢やカビ、さび、塗装やメッキ面の劣化剥離などが氷に混入することがあります。ストッカー内は、日常のお手入れにより、清潔に保ってください。また、お手入れや使用中に、ストッカーの底や氷に異物を発見されましたら、ホシザキ販売会社に点検をご依頼ください。(有料)
- この取扱説明書は、日本語を理解できる人を対象に作成されています。管理者は使用される方に対して、安全・操作指導を徹底してください。
- 管理者は、この製品を使用される方が代わった場合には、この取扱説明書を理解させて、かつ安全・操作指導してください。

■ 取扱説明書について

- この製品には、設計上の対策や安全装置によって除去できないものについては、警告文として情報を提供しています。
- この取扱説明書の内容は、製品改良により、予告なく変更する場合があります。
- この取扱説明書に記載されている図は、実際の製品とは異なることがあります。また、図の一部は、製品内部の説明を容易にするために、省略していることがあります。
- この取扱説明書は当社が版権を有しています。この取扱説明書を含む図面および技術文書のいかなる箇所も当社の事前の同意書なしに、複写、電子媒体など、どのような方式であっても複写することはできません。
- この取扱説明書を紛失、または損傷した場合は、速やかに最寄りのホシザキ販売会社にご注文ください。取扱説明書のない状態での使用は、事故発生の原因となります。
- より詳しい情報を必要とする場合やご質問がある場合は、最寄りのホシザキ販売会社にお問い合わせください。

■ 保証書について

- 保証書はホシザキ販売会社で発行します。
  必ずお受け取りいただき、よくお読みになり大切に保管してください。

■ 地球温暖化防止対策への取り組み

- この製品は地球温暖化防止のため、適正にフロンを回収する必要があります。
  冷媒を使用している製品に「フロンの見える化」ラベルを貼り、冷媒の地球温暖化に与える影響や廃棄時のフロン回収率の向上をうながしています。

(貼付けラベル例)

安全上のご注意

ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので守ってください。
表示と意味は次のようになっています。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたとき生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

人身事故、物的損害および製品本体の損害に関する警告表示

＊物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害をいいます。

⚠警告	誤った取り扱いをしたときは、死亡、後遺症などの重大な被害の可能性があることを意味します。
⚠注意	誤った取り扱いをしたときは、軽度の傷害が発生する可能性があることを意味します。
使用上の注意	誤った取り扱いをしたときは、製品が故障する可能性があることを意味します。
お知らせ	製品本来の能力が発揮できないこと、あるいは、特に知っておいていただきたいことを意味します。

衛生に関する警告表示

⚠衛生	誤った取り扱いをしたときは、健康障害が発生する可能性があることを意味します。

■ お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

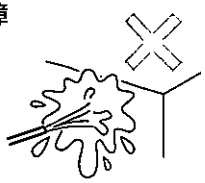
⃠	（例）分解禁止　接触禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、⃠ の中や近くに絵や文章で示します。
●	（例）プラグを抜く　アース線接続	強制（すること）を示します。 具体的な強制内容は、● の中や近くに絵や文章で示します。
△	（例）感電注意　手はさみ注意	注意を示します。 具体的な注意内容は、△ の中や近くに絵や文章で示します。

⚠警告

水掛け禁止

製品に直接水をかけないこと

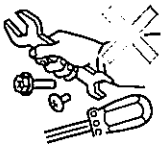
ショート、感電、さび、故障の原因になります。



改造禁止

改造は行わないこと

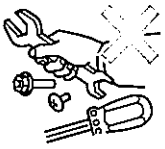
改造すると、火災、感電、ケガ、水漏れの原因になります。



分解禁止

修理技術者以外の人は分解したり、修理しないこと

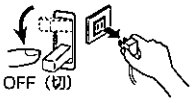
異常動作をしてケガをしたり、修理に不備があると、火災、感電、ケガ、水漏れの原因になります。



電源を切る

お手入れや点検をするときは、電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にし、電源プラグを抜くか元電源を切ること

感電したり、機械が動いたとき、ケガをする原因になります。



点検掃除

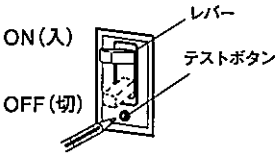
電源プラグの刃の取付面にほこりが付着していないか定期的に確認し、ガタのないように刃の根元まで確実に差し込むこと

ほこりが付着したり、接続が不完全な場合は、感電、火災の原因になります。

動作点検

漏電遮断器の機能は月に１回、動作確認すること

電源スイッチ（漏電遮断器）を故障のまま使用すると、漏電のとき動作せず、感電の原因になります。



連絡

電源スイッチ（漏電遮断器）が、「OFF（切）」に作動した場合には、ホシザキ販売会社に連絡すること

無理にレバーを「ON（入）」にすると、感電や火災の原因になります。

連絡

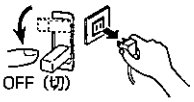
異常時（焦げ臭いなど）は電源プラグを抜くか、元電源を切って、すぐにホシザキ販売会社に連絡すること

異常のまま運転を続けると感電、火災の原因になります。

電源を切る

１週間以上使用しない場合は、電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にし、電源プラグを抜くか、元電源を切ること

ほこりがたまって、発熱、発火の原因になります。



専門業者

長期間、製品を止めていたあと、製品を再び動かすときは、ホシザキ販売会社に連絡すること

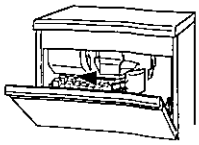
お客様自身で製品を再び動かすのはおやめください。感電などの原因になります。

⚠衛生

日常点検

氷を衛生的にご使用いただくために、日常の管理、点検を行うこと

水質などの周囲環境や経年劣化により、水垢やカビ、さびの発生、塗装やメッキ面の劣化剥離などが発生し、氷に混入することがあります。



⚠警告

よく読む

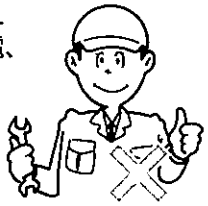
この製品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前に取扱説明書をよくお読みになり十分に理解すること

ケガの原因になります。

専門業者

据付工事は専門業者に依頼すること

お客様自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。



アース工事

アース工事を行うこと

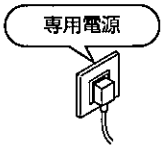
アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないこと

アースが不完全な場合は、感電の原因になります。（電気工事業者によるD種接地工事が必要）

専用電源

専用電源を使用すること

電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用やタコ足配線をすると、感電、発熱、火災、また誤作動の原因になります。



屋外禁止

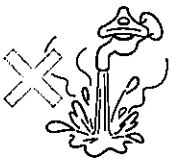
屋外で使用しないこと

雨水のかかる場所で使用すると、漏電、感電の原因になります。

湿気禁止

湿気の多いところや、水のかかりやすい場所で使用しないこと

絶縁低下から漏電、感電の原因になります。



禁止

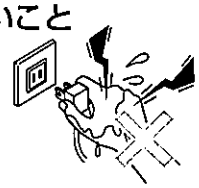
電源コードを傷つけないこと

加工したり、引っ張ったり、たばねたり、また重い物を載せたり、はさみ込んだりすると、電源コードが破損し、感電、火災の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグや元電源など電気部品に触れたり、電源スイッチ（漏電遮断器）を操作しないこと

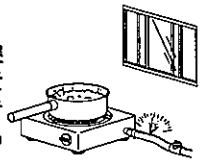
感電の原因になります。



ガス栓閉

周辺のガス器具などからガスが漏れていたら、ガスの元栓を閉めて、換気をすること

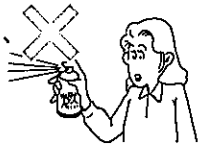
ガス漏れしたまま製品および換気扇など周辺機器のスイッチを操作したり、電源プラグを抜き差ししたりすると、火花による引火爆発の原因になります。



禁止

可燃性のスプレーを近くで使用したり、揮発性、引火性のあるものを置かないこと

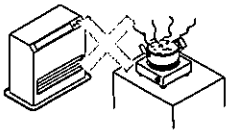
スイッチの火花などで引火し、発火の原因になります。



禁止

熱器具を周囲に置かないこと

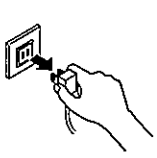
熱でプラスチックが溶けたりして、火災の原因となります。



プラグを持つ

電源プラグを抜くときは、コードを持たずに必ず電源プラグを持つこと

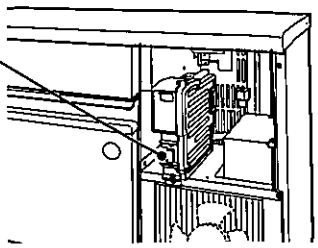
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります。



■ 安全装置

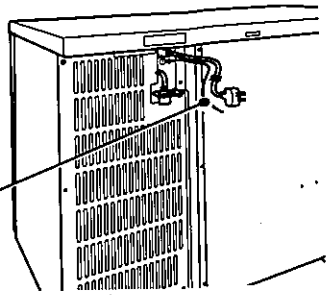
この製品には、使用者の安全を守り人身事故発生防止のため、次のような安全装置を組み込んでいます。
これらの安全装置は、この取扱説明書に記載している「安全上のご注意」の厳守・禁止事項を遵守して初めて活かされるものです。また、これらの安全装置の機能が正常であることの点検を行う必要があります。（点検の周期は、使用頻度によって異なります。）ホシザキ販売会社に点検を依頼してください。（有料）

電源スイッチ（漏電遮断器）
電源を ON・OFF します。
漏電時に自動的に電源を切ります。



（機械室）

アース線
感電防止のため、必ずアース工事をしてください。

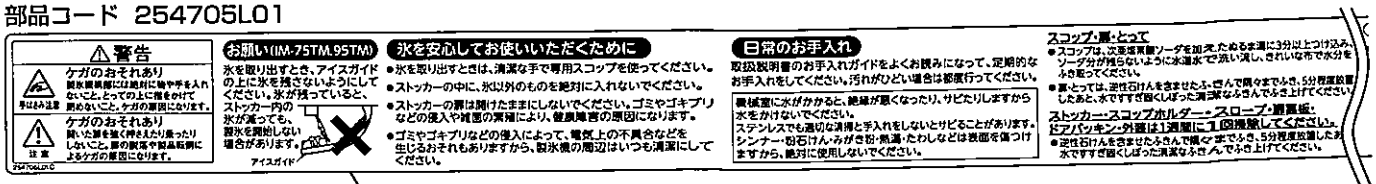


（背面）

■ PL ラベル（警告）の貼付位置

- この製品には、正しく使用していただくため、PL ラベルが貼付してあります。
  よく読み、これらの注意に従ってください。
- PL ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。
  PL ラベルはホシザキ販売会社にご注文ください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。

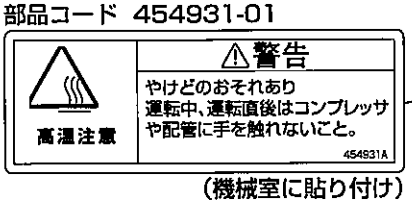
サニテーションラベル
部品コード 254705L01



ラベル／インストラクション
部品コード 370818L01

（フロントカバー裏面に貼り付け）

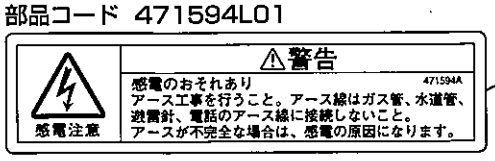
PL ラベル／コウオン
部品コード 454931-01



（機械室に貼り付け）

（背面）

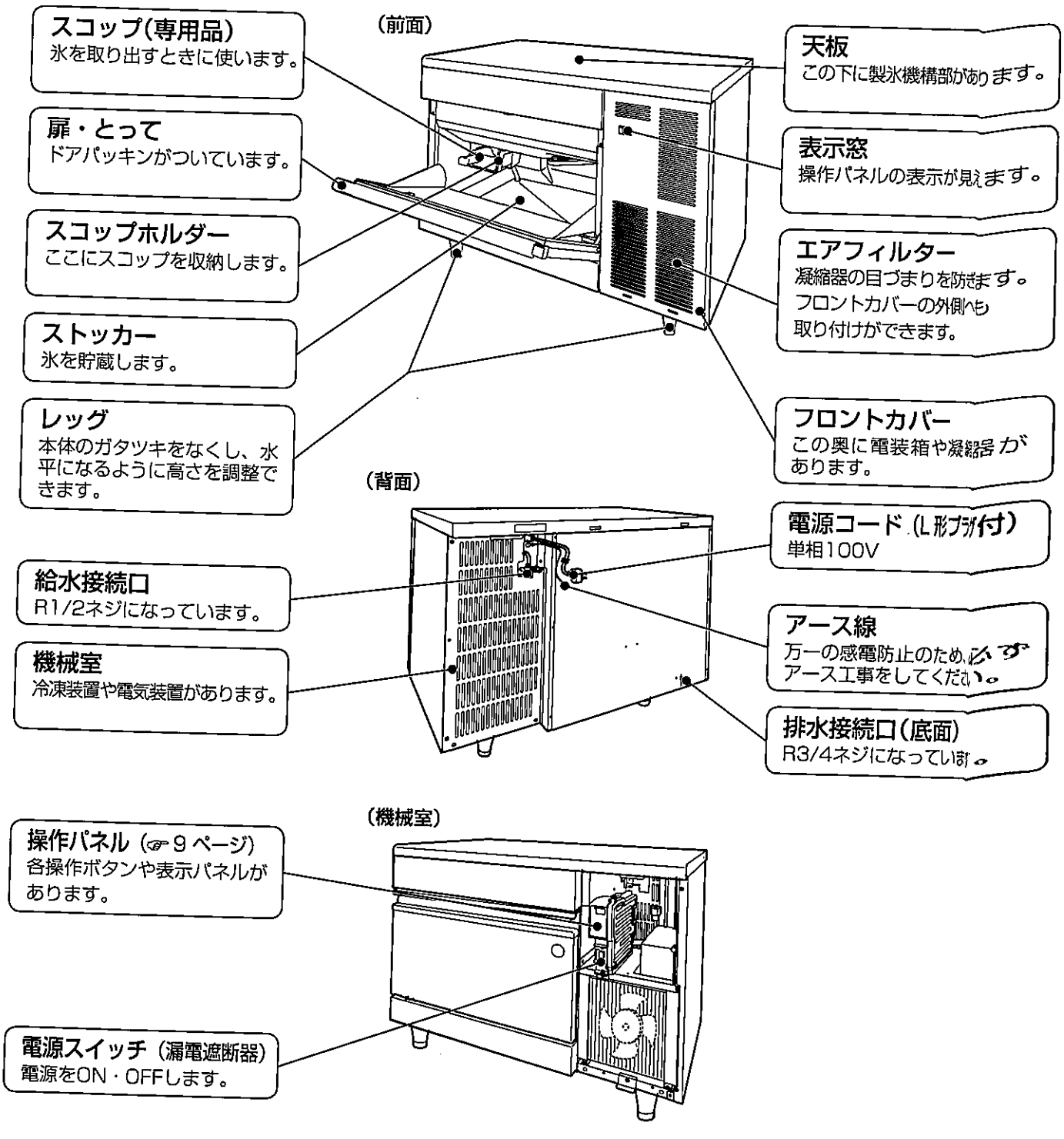
PL ラベル／カンデン
部品コード 471594L01



各部のなまえとその働き

この製品は、水から氷を作る自動製氷機です。
この取扱説明書では、IM-55TM-2 を基に説明しています。

外観・内部名称

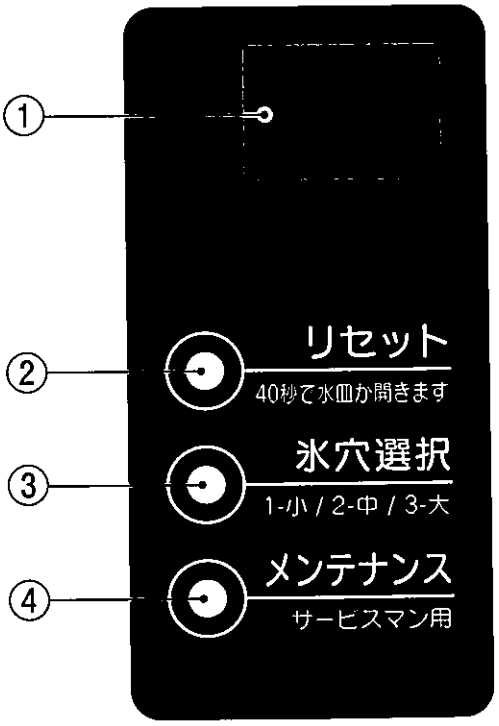


■操作パネル

①表示パネル

●機械の運転状態を表示します。

内容	表示状態
電源「入」	on が点灯
製氷中	製氷段階をバー点灯数で表示 約 0 ～ 30% ▶ 約 30 ～ 60% ▶ 約 60 ～ 100%
除氷中	バー 6 個点滅
貯氷完了	中央のバー 2 個点灯
氷穴選択中	1 穴小　2 穴中　3 穴大
機械の異常・警報	E1 「修理を依頼される前に(☞25ページ)」をご覧ください。



②リセットボタン

●ボタンを押すと除氷中になり、約 40 秒で水皿が開き氷が落下します。

③氷穴選択ボタン

●氷の中央部のくぼみの大きさを変えることができます。
「■氷穴サイズの変更（☞ 14 ページ）」を参照してください。

④メンテナンスボタン

●サービスマン専用です。使用しないでください。

付属品

取扱・据付工事説明書（1冊） 部品コード L1M089-01	
スコップM（1個） 部品コード 2X4119P01	
レッグ（4本） 部品コード 4R2833-01	
ニップル（1個） 部品コード 4H6125-01	
キュウスイセンヨウ・ エルボ・エンビ（1個） 部品コード 751VEW220	

ドレンホース（1本） 部品コード 4X4720A01	
ケーブルストラップ（2個） 部品コード 430361-04	
カフス（1個） 部品コード 437659P01	
ガード（1個） 部品コード 4Y4707M01	
フランジボルト（Cタイト） （2個） 部品コード FTR0408M0	

お知らせ

- 付属品をご注文の際は、ホシザキ販売会社にお問い合わせください。

オプション

レッグ（4本） H=50 部品コード 446837-01	

ストレーナー（1個） 部品コード 311147A01	

お知らせ

- オプションをご注文の際は、ホシザキ販売会社に依頼してください。
- （ ）カッコ内の数字は必要数です。

お使いになる前に

■ 据付工事終了時の確認

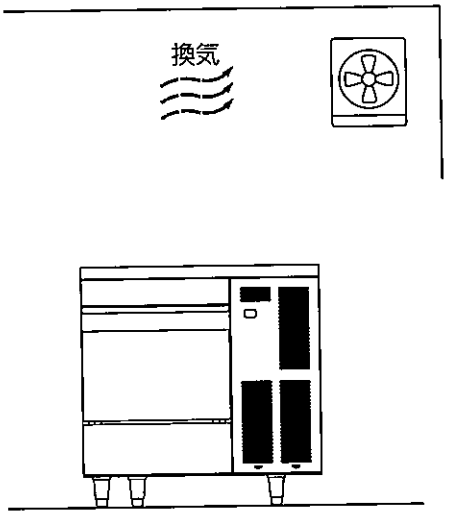
据付工事終了時の確認は、お客様が立ち会いのうえ、専門業者と一緒に行ってください。
据付工事が終了しましたら、正しい工事が行われたことを「据付工事説明」に従って確認してください。
(☞ 29 ページ)

■ 運転前の確認

(使用上の注意)

- 使用温度範囲は周囲温度 1 ～ 35℃、水温 5 ～ 30℃でお使いください。周囲温度が 35℃を超える場合は、換気扇などで換気をしてください。
- 給水圧は 0.05 ～ 0.78MPa の範囲内で使用してください。
- 凍結のおそれのある場所には据え付けないでください。
- 直射日光や発熱器具 (コンロなど) の影響を受けないようにしてください。やむをえず直射日光の当たるところで使うときは、必ず日除けを付けてください。
- スコップはストッカー内のスコップホルダーに収納してください。
- 製品の空気の吸込口や吹出口をふさがないでください。
冷却性能の低下や故障の原因になります。
- 水道水をご使用になる場合でも、水質によっては製氷機内の水系路にスケールが付着して製氷量が少なくなったり、故障の原因になります。
水質の目安としては「硬度：50mg/L、シリカ：30mg/L」以下の水道水をご使用ください。

  上記目安値を超える場合は、水質に適した水処理器の取り付けが必要となります。水処理専門業者、またはホシザキ販売会社にご相談ください。



(お知らせ)

- ストッカー内は清掃してありますが、念のために、ご使用前にもう一度清掃してください。「お手入れと点検」をご覧ください。(☞ 18 ページ)
- お使いはじめや、1 週間以上使わなかったときは、庫内がプラスチックの臭いがしたり、氷が臭うことがありますが害はありません。これらの臭いは運転を続けるとしだいに消えていきます。衛生上最初の氷は捨ててください。
- 配管はお客様ごとに配管状態が異なるので、水道の元栓、給水バルブ、水抜きバルブなどの位置、操作方法については、事前に確認してください。

氷を衛生的にご使用いただくために

氷を食品としてご使用になる場合、製氷機を衛生的に保つため、日常の管理、点検が重要です。製氷機を長期間ご使用になりますと、温度、水質などの使用環境と経年変化により、水垢やカビ、さびの発生、塗装やメッキ面の劣化剥離などが氷に混入することがあります。ストッカー内は、日常のお手入れにより、清潔に保ってください。
また、お手入れや使用中に、ストッカーの底や氷に異物を発見されましたら、ホシザキ販売会社に点検をご依頼ください。(有料)

製氷機について

製氷機は、水道水を製氷機構部で製氷した氷をストッカー内に送り貯氷します。
ストッカー内で氷がいっぱいになると製氷工程を停止し、氷が使用されると製氷運転を開始して、常にストッカー内が氷でいっぱいの状態になるように運転します。

運転のしかた

⚠警告

製氷機構部には、絶対に物や手を入れないこと
挿入禁止　製氷機構部が動いたとき、ケガの原因になります。

扉を無理に開いたり、強く押さえたり乗ったりしないこと
禁止　扉の脱落や製品転倒によるケガの原因になります。

⚠注意

電源プラグの抜き差しや元電源の入切による製品の運転・停止は行わないこと
禁止　感電やショートの原因になります。

扉の開閉は、とってをしっかり握って行うこと
扉開閉　扉が急に開いてケガの原因になります。

製氷機構部から落下する氷に注意すること
禁止　落下する氷が手に当たると、ケガの原因になります。

氷が床に落ちたときは、すぐに氷を片付けること
氷除去　氷を踏みつけたとき、滑ってケガの原因になります。

空気の吸込口や吹出口に棒などを入れないこと
挿入禁止　内部でファンが高速回転しているので、ケガの原因になります。

足で扉を閉めないこと
禁止　破損の原因になります。

⚠衛生

手を清潔にしたうえで、各部の取り扱いやお手入れを行うこと
清潔　汚れた手で扱うと健康障害の原因になります。

ストッカーの中には氷と付属のスコップ以外のものは入れないこと
禁止　雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

扉は開けたままにしないこと
開放禁止　ゴミやゴキブリなどの侵入や雑菌の繁殖により、健康障害の原因になります。

スコップ・扉は毎日、ストッカーは1週間に1回清掃すること
清掃　清掃しないと、雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

■ 運転の手順

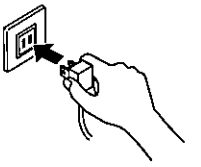
(お知らせ)

- 製氷機の配管はお客様ごとに配管状態が異なるので、水道の元栓、給水バルブ、水抜きバルブなどの位置、操作方法については、事前に確認してください。
- 断水後は、配管にたまった水を抜いてから運転してください。(☞ 17 ページ)
- 周囲温度が 0℃以下になり、凍結のおそれがあるときは使用を止め、水抜きをしてください。

1 水道の元栓を開きます。

2 給水バルブを開きます。

3 電源プラグを専用コンセントに確実に差し込みます。

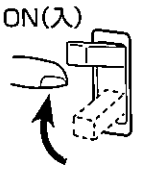


4 「■フロントカバーの取り外し」に従い、フロントカバーを外します。

5 電源スイッチ（漏電遮断器）を「ON（入）」にします。

⇒表示パネル部に「on」が点灯します。

⇒約 3 分後に機械が運転を始め、自動製氷します。



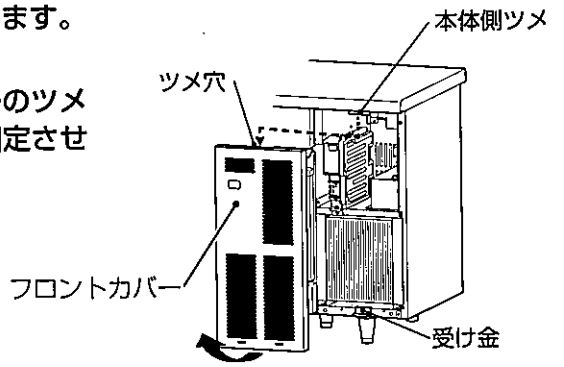
電源「入」

6 フロントカバーを元通りに取り付けます。

■ フロントカバーの取り外し

1 フロントカバーの下部を手前に引いて下にずらします。

2 取り付けるときは、本体のツメにフロントカバーのツメ穴を合わせて、フロントカバー下部を受け金で固定させます。

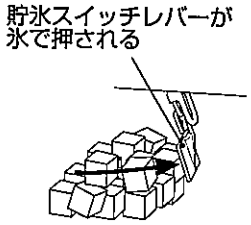


■ 自動製氷について

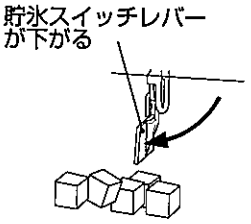
(お知らせ)

- 製氷後の氷は、ストッカー内で少しずつ溶けてざらざらして透明度が下がりますが、飲み物の中にいれるときれいになります。
- 氷にヒダが付く場合がありますが、異常ではありません。

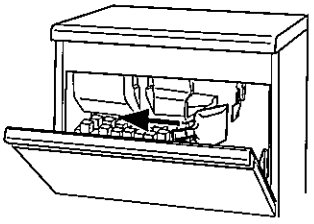
1 ストッカー内が氷でいっぱいになると、自動的に製氷を停止します。
表示パネル部は貯氷完了表示に変わります。



2 ストッカー内の氷が減ると、自動的に製氷を開始します。



3 氷がいっぱいになってきたら、ストッカー内の左側に氷をよせます。より多くの氷を貯めることができます。



■ 氷穴サイズの変更

(お知らせ)

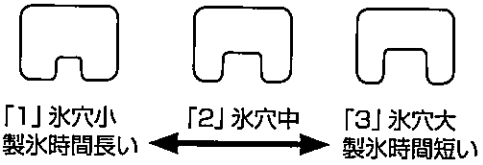
- 出荷時の設定は氷穴小「1」にセットしてあります。
- 氷穴大「3」に設定すると製氷時間が短くなり、短時間でたくさんの氷ができます。

1 操作パネルの氷穴選択ボタンを押します。

⇒現在の設定値が表示されます。

2 氷穴選択ボタンを続けて押します。

⇒順に設定値が変わります。



■ 断水のとき

⚠衛生

断水のときは、電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にし、給水バルブを閉めること

断水時閉弁　開けておくと、通水時に「赤水 *1」が発生し、不衛生な氷ができる原因になります。

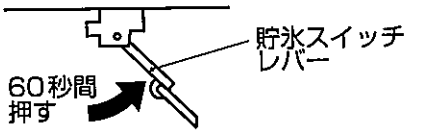
注）*1　黄褐色や赤褐色に濁ったさびを含んだ水

断水のとき

1 給水バルブを閉じます。

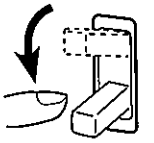
2 「■フロントカバーの取り外し」に従い、フロントカバーを外し、リセットボタンを押します。（☞ 13 ページ）

3 扉を開けて、ストッカー内の右側奥にある貯氷スイッチのレバーを右に約 60 秒間押します。



4 表示パネル部に「貯氷完了」表示が出たら、電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にします。

貯氷完了



OFF(切)

断水終了後の再運転のしかた

（お知らせ）

- 断水が長時間（10 日間以上）続く場合は、ホシザキ販売会社にご連絡ください。

1 給水バルブが閉じていることを確認します。

2 水抜きバルブを開きます。

3 水道の元栓を開きます。
通水状態にして赤水が出なくなるまで排水します。

4 水抜きバルブを閉じます。

5 給水バルブを開きます。

6 電源スイッチ（漏電遮断器）を「ON（入）」にします。

停止のしかた

■ 停止の手順

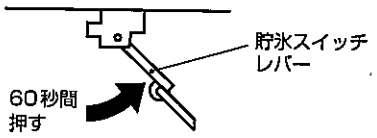
(お知らせ)

- 断水時は、下記 1 ～ 4 を行ってください。

1 給水バルブを閉じます。

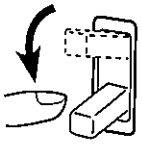
2 「■フロントカバーの取り外し」に従い、フロントカバーを外し、リセットボタンを押します。(☞ 13 ページ)

3 扉を開けて、ストッカー内の右側奥にある貯氷スイッチのレバーを右に約 60 秒間押します。



4 表示パネル部に「貯氷完了」表示が出たら、電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切)」にします。

貯氷完了


OFF(切)

5 電源プラグを専用コンセントから抜きます。

6 フロントカバーを元通りに取り付けます。

7 ストッカー内の氷をすべて取り出して、内外部をきれいに掃除し、充分乾燥させます。(☞ 18 ページ)

■水抜きのしかた

⚠注 意

水抜き

周囲温度が0℃以下になり、凍結のおそれがあるときは必ず水抜きをすること

配管の破裂により水漏れし、周囲の機器類をぬらす原因になります。

⚠衛生

水抜き

長期間（2日以上）停止させるときは水抜きをすること

水の腐敗から雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

1 元栓を閉じます。

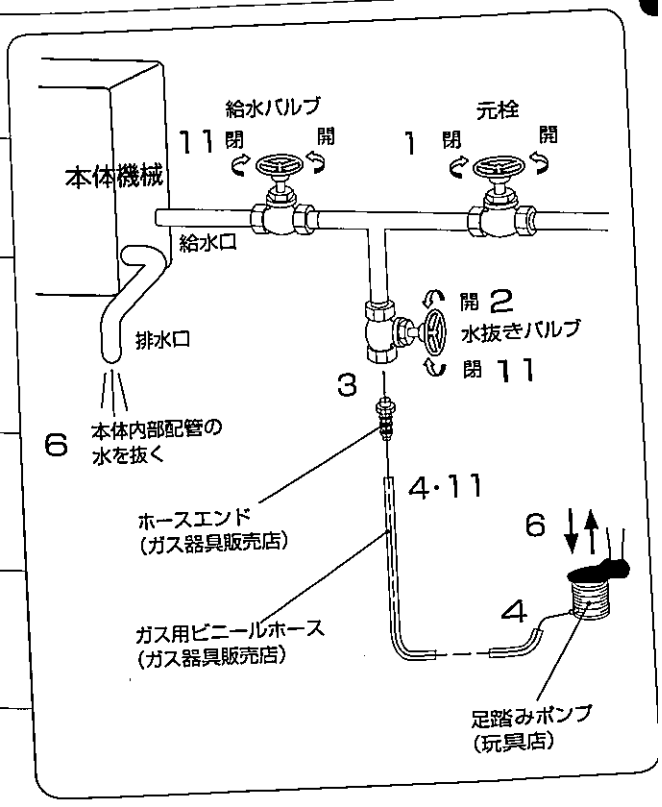
2 配管内の水抜きバルブを開いて、管内の水を排水します。

3 水抜きバルブの排水口にホースエンドを取り付けます。
（ホースエンド：プロパンガス用R1/2、ガス器具販売店にあります。）

4 市販のガス用ビニールホースの両端にホースエンドと足踏みポンプを接続します。
（足踏みポンプ：玩具店にあります。）

5 「■フロントカバーの取り外し」に従い、フロントカバーを外し、リセットボタンを押します。
（☞13ページ）

6 約15秒後に機内の給水弁が開きますので、足踏みポンプで給水口から空気を送り込んで、本体内部の水を抜きます。



7 リセットボタンを押し約40秒後に水皿が開いたら、電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にします。

8 電源プラグを専用コンセントから抜きます。

9 フロントカバーを元通りに取り付けます。

10 ストッカー内の氷をすべて取り出して内外部をきれいに掃除し、充分乾燥させます。

11 ホースエンドを外し、給水バルブ、水抜きバルブを閉じます。

お手入れと点検

⚠衛生

掃除・お手入れはこまめに行うこと

洗剤等を使用する場合は、その用法、用量および使用上の注意をよく読み、十分に理解してから使用してください。雑菌の繁殖や商品の腐敗の原因になります。

お手入れ

■ サービスマンによる安全点検のおすすめ

製品のご使用に支障がなくても、保証期間を過ぎてご使用されている場合は、水かかりや汚れによる電気部品の絶縁劣化、経年変化などにより、感電、火災、水漏れなどの原因になることがあります。ホシザキ販売会社に点検をご依頼ください。また、水質などの周囲環境や経年劣化により、水垢やカビ、さびの発生、塗装やメッキ面の劣化剥離などが発生し、氷に混入する場合がありますので、ホシザキ販売会社に点検をご依頼ください。（有料）

点検内容

- 製品内部のほこりの堆積、水漏れ、汚れなど確認と対処
- 本体および使用部品の経年変化の状況など確認と対処
- 「点検・交換時期目安」の点検・交換項目の確認と対処
- 水経路の水垢、シリカ、石灰などの異物

■ 点検・交換時期目安

この製品を効率よくご使用いただくためには、定期的に点検・整備・交換が必要です。

点検は、運転開始後１年で点検、以降６か月に１回（年２回）ホシザキ販売会社に依頼してください。（有料）製品を長期間使用すると、温度、水質などの使用環境と経年変化により、水垢やカビ、さびの発生、塗装やメッキ面の劣化剥離などが発生し、氷に混入することがあります。製品は、定期的なお手入れを行い清潔に保ってください。また、お手入れや使用中に、ストッカーの底や氷に異物を発見したら、ホシザキ販売会社にご連絡ください。

■ お手入れのしかた

毎日のお手入れは、殺菌効果のある逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）の使用をおすすめします。
逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）はホシザキ販売会社にお問い合わせください。
逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）はメーカー推奨の濃度に希釈したものをご使用ください。
汚れが付いているときは、中性洗剤などを含ませてふき取り、洗剤分が残っていない状態で逆性石けんをお使いください。

使用上の注意

- 次のようなものは使わないでください。
  <塗装面やプラスチック面をいためるもの>
  シンナー・ベンジン・アルコール・石油・粉石けん・みがき粉・アルカリ性洗剤・酸・たわしなど。
  特に換気扇・レンジなどに使用する強力な洗剤。
  <さびの発生につながるもの>
  塩素系漂白剤（※次亜塩素酸ソーダ）など。（※スコップは次亜塩素酸ソーダでお手入れをしてください）
  上記以外の洗剤でも塗装面やプラスチック面をいためるものがあります。不具合が発生した場合は直ちに使用を中止してください。
- 化学雑巾をご使用の際は、その使いかたに従ってください。

お知らせ

- 洗剤分が残っていると、金属、プラスチック面をいためる原因になります。
- お手入れポイントをまとめた「お手入れガイド」もご覧ください。（☞28 ページ）

ステンレスのお手入れ

ステンレスでも適切な手入れをしないとさびることがあります。
日常のお手入れは、やわらかい布にぬるま湯を含ませてふき取ってください。
ひどい汚れは、中性洗剤などを含ませてふき取り、洗剤分を残さないでください。
汚れがひどいときは都度行ってください。

■ 毎日のお手入れ

スコップ

スコップは雑菌のつきやすいところです。常に清潔にしてください。

(お知らせ)

- 次亜塩素酸ソーダを加えたぬるま湯に３分以上つけ込み、その後、ソーダ分が残らないように水道水で洗い流し、きれいな布で水分をふき取ってください。

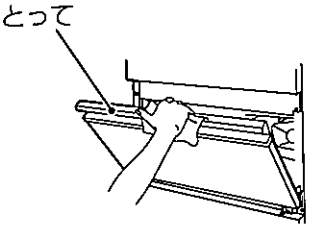
扉、とって

扉、とっては雑菌のつきやすいところですから、隅々まで掃除をして常に清潔にしてください。

逆性石けんを含ませたふきんでふいてください。５分程度放置したあと、水ですすぎ固くしぼった清潔なふきんでふき上げてください。汚れがひどい場合は、メーカー推奨の濃度に希釈した中性洗剤などを含ませてふき取り、洗剤分を残さないでください。

(使用上の注意)

- 扉はステンレスですが、お手入れをして常に清潔にしないとさびる場合があります。
- 扉の表面に塗装がしてあります。
  傷つくため市販のステンレスクリーナーは使用しないでください。
- プラスチック部品には殺虫剤をかけたり、油性のあるものを触れさせないでください。変形したり、割れたりすることがあります。



■ １週間に１回のお手入れ

ストッカー内のお手入れをするときは、中の氷を清潔な別の容器に移し替えて行ってください。

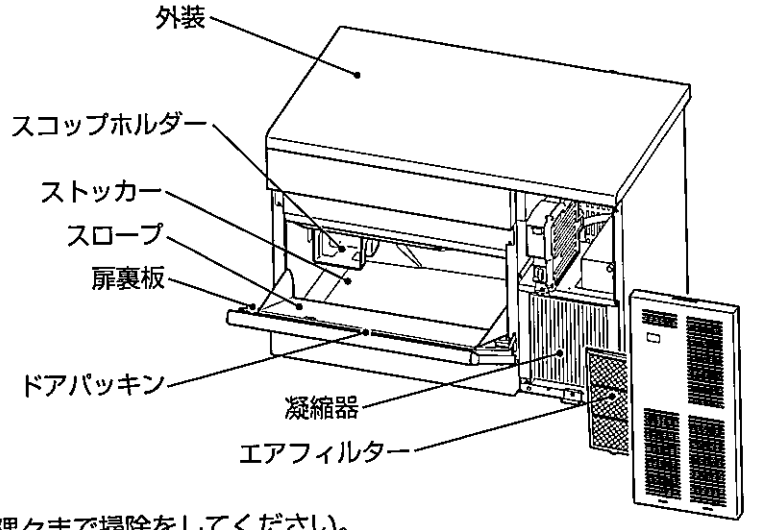
ストッカー、スコップホルダー、スロープ、扉裏板、ドアパッキン、外装

ストッカー、スコップホルダー、スロープ、扉裏板、ドアパッキン、外装は、汚れが付きやすいところです。隅々まで掃除してください。

逆性石けんを含ませたふきんでふいてください。５分程度放置したあと、水ですすぎ固くしぼった清潔なふきんでふき上げてください。汚れがひどい場合は、メーカー推奨の濃度に希釈した中性洗剤などを含ませてふき取り、洗剤分を残さないでください。

(使用上の注意)

- プラスチック部品には殺虫剤をかけたり、油性のあるものを触れさせないでください。変形したり、割れたりすることがあります。
- ドアパッキン、ドアパッキンの当たり面のお手入れをするときは、酸性・アルカリ性洗剤、または漂白剤や殺菌用のアルコールは使用しないでください。ドアパッキンが劣化し（硬化および変形）、冷気漏れの原因となります。
- ドアパッキンはプラスチックですので、40℃以上のお湯で洗わないでください。
  変形する場合があります。



(お知らせ)

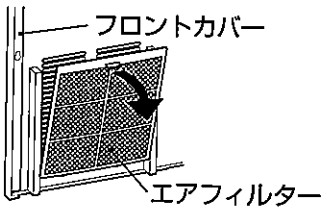
- スコップホルダーは汚れが残らないように、隅々まで掃除をしてください。
- ドアパッキンは、はめ込み式ですので取り外して洗うことができます。

■ 1 か月に 2 回のお手入れ

エアフィルター

- エアフィルターにゴミやほこりが付くと、正常な運転ができなくなります。
- エアフィルターを取り外したまま運転しないでください。製品にほこりが入り、故障の原因になります。

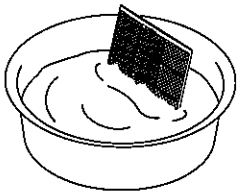
1 「■フロントカバーの取り外し」に従い、フロントカバーを外し、エアフィルターを手前に引き、持ち上げます。(☞ 13 ページ)



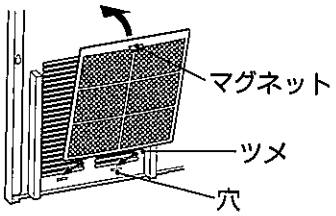
2 水またはぬるま湯に中性洗剤を入れて、ネットを破らないように注意して洗い、水洗いしたあと十分に乾かします。

(使用上の注意)

- エアフィルターは、40℃以上のお湯で洗わないでください。変形する場合があります。



3 エアフィルターの下側のツメをフロントカバーの穴に差し込み、上側のマグネットで吸着させます。



■ 1 か月に 1 回の点検

漏電遮断器機能の点検

⚠警告

漏電遮断器の機能は月に 1 回、動作確認すること

電源スイッチ (漏電遮断器) を故障のまま使用すると、漏電のとき動作せず、感電の原因になります。

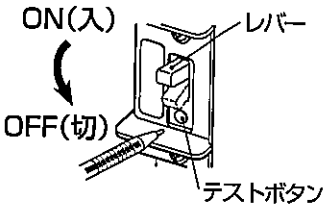
動作点検

1 「■フロントカバーの取り外し」に従い、フロントカバーを外します。(☞ 13 ページ)

2 電源スイッチ（漏電遮断器）のテストボタンを、ボールペンなどの先で押します。

⇒電源スイッチ（漏電遮断器）が「OFF（切)」に切り替われば正常です。

- 「OFF（切)」に切り替わらない場合は、すぐにホシザキ販売会社に連絡してください。



■ 1 年に 1 ～ 2 回の点検

アース線・電源プラグ・コードの点検

調べるところ	処置方法
(1) アース線が切れたり接続部がゆるんでいませんか？	異常の場合は、電気工事業者に修理を依頼してください。
(2) 電源プラグや電源コードに異常な発熱や破損、重い物が載ったり、はさみ込まれたりしていませんか？	異常の場合は、すぐにホシザキ販売会社に修理を依頼してください。
(3) 電源プラグの刃と刃の取付面およびコンセントにほこりが付いていませんか？ 電源プラグ 刃の取付面	ほこりがついている場合は、元電源を切ってからお手入れをしてください。
(4) 電源プラグが専用コンセントに差し込んでありますか？	他の機器と共用している場合は、専用コンセントにしてください。

給排水管の点検

ストッカー内に氷の無い状態で、約 2L の水を入れて 1 分以内に排水できるか確認してください。
排水できない場合は、排水管内が詰まっている場合があります。

使用上の注意

- 排水管に詰まりが無いか、年に 1 ～ 2 回点検を行ってください。排水管が詰まると、漏水から周囲（家財など）をぬらす原因となります。

調べるところ	処置方法
(1) 配管や排水ホースの接続部より水漏れはありませんか？	水漏れの場合には、すぐにホシザキ販売会社にご連絡ください。
(2) 給排水管が詰まっていませんか？詰まると床に水があふれます。	排水詰まりの場合は、すぐにホシザキ販売会社にご連絡ください。
(3) 重い物などに踏みつけられていませんか？	異常の場合は、ホシザキ販売会社に修理を依頼してください。

※フロン排出抑制法に基づき、3 か月に 1 回以上の点検・記録を行ってください。
点検方法などについては、ホシザキ販売会社までお問い合わせください。

■ 消耗品・定期交換部品

この製品には、消耗品、定期交換部品はありません。

長期停止

■ 長期停止の手順

⚠警告

電源を切る

1 週間以上使用しない場合は、電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にし、電源プラグを抜くか、元電源を切ること

ほこりがたまって、発熱、発火の原因になります。

禁止

製品を一時的に使用を中止して保管する場合は、扉を密閉できないようにすること

幼児が閉じ込められる原因になります。

⚠衛生

水抜き

長期間（2 日以上）停止させるときは水抜きをすること

水の腐敗から雑菌が繁殖し、健康障害の原因になります。

（お知らせ）

- 凍結の原因になりますので水抜きをしてください。（☞ 17 ページ）

1 「■停止の手順」に従って、運転を停止します。（☞ 16 ページ）

2 「■お手入れのしかた」に従って、以下のお手入れを行います。（☞ 18 ページ）

(1) 毎日のお手入れ
(2) 1 週間に 1 回のお手入れ
(3) 1 か月に 2 回のお手入れ

3 再開するときは、「■運転の手順」に従って確認し、運転を始めます。（☞ 13 ページ）

アフターサービス

⚠警告

修理技術者以外の人は分解したり、修理しないこと

分解禁止 異常動作をしてケガをしたり、修理に不備があると火災、感電、ケガ、水漏れの原因になります。

修理をするときは、ホシザキ販売会社に依頼すること

修理依頼 お客様での修理は、行わないこと。
異常動作をしてケガをしたり、修理に不備があると感電、火災などの原因になります。

修理・お取り扱い・お手入れ・転居などのご相談は、ホシザキ販売会社にお申し付けください。

■ 保証書(ホシザキ販売会社発行)

設置年月日(お買い上げ年月日)・販売会社名などの記入を必ず確認し、ホシザキ販売会社にご連絡ください。
保証期間は、設置年月日より1年間です。

■ 補修用性能部品の保有期間

この製品の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後9年です。

(お知らせ)

- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

保守制度のおすすめ

当社の保守制度へのご加入をおすすめいたします。
これは定期的に点検整備を行い、常に安定した性能を維持して、ご使用いただくための制度です。
詳細はホシザキ販売会社にお問い合わせください。

■ 修理を依頼されるとき

「修理を依頼される前に」に従って調べていただき、なお異常があるときは、必ず電源プラグを抜いて、ホシザキ販売会社にご連絡ください。(☞裏表紙)

ご連絡いただきたい内容

- 形名(ネームプレートに記載)
- 製造番号(ネームプレートに記載)
- 設置年月日(保証書に記載)
- 故障状況(できるだけ具体的に)
- お客様名
- ご住所
- お電話番号

保証期間中の修理

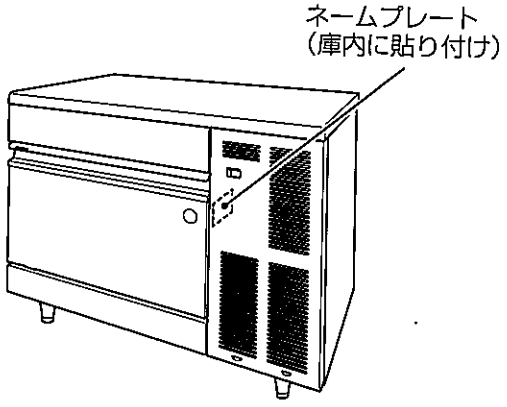
保証書の規定に従って、ホシザキ販売会社が修理させていただきます。
なお、修理に際しましては、保証書をご提示ください。

保証期間満了後の修理

保証期間満了後は、修理によって製品の性能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料で修理いたします。

■ ネームプレート貼付位置

この製品についてお問い合わせいただく場合は、このネームプレートに記載されている形名をお知らせください。



■ 保証とサービス

08A

1 この製品には、保証書がついています

(1) 保証書はホシザキ販売会社で発行します。必ずお受け取りいただき、よくお読みになり大切に保管してください。
(2) 転居などで修理の依頼先がご不明の場合は裏表紙に記載のホシザキ販売会社にご相談ください。

2 保証修理について

以下は保証書と同一内容です。

1. 保証修理の内容
この保証は、保証書表記記載のこの製品を構成する後記3. に記載する保証部品について、当社の責任により不具合が発生した場合に、この保証書に記載する期間と条件に従って、これの無料修理（この無料修理を「保証修理」といいます。）をお約束するものです。保証修理は、部品の交換または補修により行います。なお、保証修理時に取り外した不具合部品は、当社の所有となります。

2. 保証修理の受け方
保証修理をお受けになる場合は、ホシザキ販売会社にご連絡ください。ホシザキ販売会社のサービスマンがお伺いした際、この保証書をご提示のうえ、保証修理をお申し付けください。保証書を提示されない場合、保証修理をお受けいたしかねます。

3. 保証部品
この保証書に基づく保証の対象となる部品（保証部品といいます。）は、この説明書に記載する消耗品を除いたものです。

4. 保証期間
保証修理を受けられる期間（保証期間といいます。）は、保証書表記記載のとおりです。なお、交換部品として新たに装着した部品についての保証期間は、この保証書の期間満了時までとします。

5. お客様にお守りいただく事項
お客様がこの製品の取扱説明書、この製品に貼付されたラベルその他の注意書きに従って、正しい使用・お手入れがなされている場合に、保証修理をいたします。これらが守られていない場合は、保証修理をお断りすることがありますので、ご承知おきください。

(1) この説明書に記載する取扱方法、貼付ラベルその他の注意書きに従った正しい使用・お手入れ
(2) 法令等で定められた安全性確保に関する日常および定期的な点検整備
(3) この説明書に記載する消耗品の交換、および定期交換部品の指定どおりの交換

6. 保証しない事項
(1) 以下の現象等、不具合と認められないものは、保証修理いたしません。
- 通常の使用損耗および経年変化により発生する現象（樹脂部品、塗装面、メッキ面等の自然退色・劣化・剥離等）
- この製品の性能上問題がないことが一般的に認められている現象等（通常の運転音、振動、操作フィーリング等）

(2) 以下の不具合は、外的要因によるものであり、当社の責任による不具合ではありませんから、保証修理いたしません。
- 地震・風水害・落雷等の自然災害、火災による罹災事故、公害・塩害・有毒ガス・薬品・異常電圧等を原因とした不具合
- 給排水管の破損、異物の詰りによる不具合
- 給水、給電が行われなかったことに起因する不具合
- お客様の故意・過失により生じた不具合
- ホシザキ販売会社以外の第三者が、修理または改造等したことによる不具合
- 不具合の原因が、この製品以外の部分にある場合の不具合
- 寒冷時における製品内の凍結による不具合
- 車両、船舶等の揺れ動く場所での使用による不具合

(3) 以下の不具合は、適切な点検・整備・お手入れまたは正しい使用・管理等がなされていないことに起因するものですから、保証修理いたしません。
- 法令等で定められた安全性確保に関する日常および定期的な点検整備の未実施に起因する不具合
- この説明書に記載する取扱方法、貼付ラベルその他の注意書きに従った正しい使用・お手入れの未実施に起因する不具合
- この説明書に記載する消耗品の交換、および定期交換部品の指定どおりの交換の未実施に起因する不具合
- 通常の注意で発見・処置できたにもかかわらず、放置した事により拡大した不具合
- 当社の指定する部品以外の部品・原材料または洗剤等を使用したことに起因する不具合

(4) 保証修理以外に、以下の費用については、この保証書に基づいて当社が負担することはいたしません。
- この製品を使用できなかったことによる賠償費用
- 自らまたはホシザキ販売会社以外が修理した場合の修理費用

7. 別途費用
以下の費用については、別途、お客様の費用負担としてご請求申しあげます。
(1) 保証修理を行うため、離島または離島に準ずる遠隔地に赴く場合の旅費（航空運賃・乗船運賃・宿泊費等）
(2) 取扱説明書に記載する消耗品および定期交換部品の費用（作業費を含む）

8. 保証の発効
この保証は、機種、機番、設置年月日が記入されていることにより有効となります。

9. 保証の失効
この保証は、保証書に記載する保証期間が満了した時に、効力を失います。また、保証期間であっても、製品が日本国外に持ち出された時には、効力を失います。

10. その他
(1) この保証は、日本国内においてのみ有効です。
(2) この保証書は、再発行いたしませんので、大切に保管してください。
(3) この保証書は、この保証によって、お客様の権利を制限するものではありません。
※ This warranty is valid only in Japan.

修理を依頼される前に

「故障かな？」と思われたときは、以下の項目に従って調べてください。
なお異常があるときは、電源プラグを抜くか元電源を切って、ホシザキ販売会社にご連絡ください。（☞ 裏表紙）
修理は専門の技術が必要です。お客様での修理は行わないでください。

■ 動作の異常

こんなときは	調べるところ	処置方法
氷がまったくできない	(1) 給水管が凍結していませんか？	凍結している場合は電源スイッチ（漏電遮断器）を押して氷が溶けるまでお待ちください。
	(2) 断水になっていませんか？	通水をお待ちください。
	(3) 水圧が低くなっていませんか？	水圧が低い場合は、ホシザキ販売会社に連絡してください。
	(4) 給水バルブが閉まっていませんか？	閉まっていたら開いてください。（☞ 13 ページ）
	(5) 停電ではありませんか？	通電するのをお待ちください。
	(6) 電源プラグが抜けていませんか？	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	(7) 電源スイッチ（漏電遮断器）が「OFF（切）」になっていませんか？	「ON（入）」に変えてください。運転中に自動的に「OFF（切）」の位置になった場合は漏電の可能性があります。電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」にして、ホシザキ販売会社にご連絡ください。
	(8) 表示パネル部に警報「E1」～「EC」が点滅していませんか？	「E1」～「EC」が点滅しているときは「■警報表示」を参照していただき対処してください。（☞ 26 ページ）
製氷量が少ない	(1) 周囲温度が 35℃以上になっていませんか？	換気扇などで換気して周囲温度を下げてください。（☞ 11 ページ）
	(2) 外部から熱気の影響を受けていませんか？	熱源を遠ざけてください。
	(3) 吸込口、吹出口の前に、物を置いていませんか？	物を取り除いてください。
	(4) エアフィルターにゴミが詰まっていませんか？	エアフィルターの掃除をしてください。（☞ 20 ページ）
床がぬれている	(1) 排水管が詰まっていませんか？	ホシザキ販売会社にご連絡ください。
	(2) 排水管が折れ曲がってつぶれていませんか？	
	(3) 排水管が排水口より高くなっていませんか？	
	(4) 排水管が下水管に直結されていませんか？	
異常音がする	(1) 床がしっかりしていますか？	弱い場合は、ホシザキ販売会社にご連絡ください。
	(2) 据付が悪く、がたついていませんか？	アジャストボルトを調整してください。
	(3) 製氷機に何か触れていませんか？	接触しているものを取り除いてください。
氷穴が大きく不完全な氷ができたとき	(1) 停電ではありませんか？	通電するのをお待ちください。
	(2) 運転中に電源スイッチ（漏電遮断器）を「OFF（切）」「ON（入）」しませんでしたか？	通常の運転中は電源スイッチの「OFF（切）」「ON（入）」はしないでください。
	(3) 運転中にリセットボタンを押しませんでしたか？	運転中はリセットボタンを押さないでください。

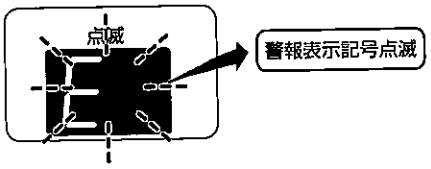
こんなときは	調べるところ	処置方法
氷穴が大きく不完全な氷ができたとき	(4) 水道の水圧が低くなっていませんか？	水圧が低い場合は、ホシザキ販売会社に連絡してください。
	(5) 周囲温度が35℃以上になっていませんか？	換気扇などで換気して周囲温度を下げてください。(☞11 ページ)
	(6) 外部からの熱気の影響を受けていませんか？	熱源を遠ざけてください。
	(7) 水道の水圧が高すぎませんか？	水圧が高い場合は、ホシザキ販売会社に連絡してください。
その他	(1) 運転中、シューカチッという音がする	冷媒が流れる音や電気部品が作動する音で、異常ではありません。
	(2) 運転中に、ガタンと音がする	氷の落下音です。異常ではありません。
	(3) 製氷機本体の外部に露がつく	これは異常ではありません。 製氷機の内部が冷えているためです。露がついたときは、やわらかい乾いた布でふき取ってください。
	(4) 製氷中に水が流れる音がします。	これは給水音であり、異常ではありません。
	(5) 氷が白くにごるとき	水質によっては白く氷がにごることがあります。

● 上記を確認し、それでも異常があるときは、ホシザキ販売会社にご連絡ください。

■ 警報表示

「E」が点滅したとき

操作パネル内の運転状況表示部に「E」が点滅したときは、製氷機に異常が起きています。



使用上の注意

- 操作パネルの運転状況表示部は製氷、排水中、停止を示します。
- 機械のトラブル時には、「E」を表示して故障内容を示します。
- 電源（漏電遮断器）を一旦「切」にして再び「入」にすることで一時的に製氷運転が可能になる場合もあります。頻繁に点滅する場合は製氷機のご使用を中止してください。

警報表示記号	警報内容	故障内容
E1	製氷異常	設定時間内で氷が出来ていません。
E2	除氷異常	設定時間内で氷が落下しません。
E3	水皿下降異常	水皿が下がっていません。
E4	水皿上昇異常	水皿が上がっていません。
E5	製氷室高温異常	除氷が続いています。
E6	電源反相異常	3相電源機種配線の逆相接続です。
E7	ファンモーター異常	ファンモーターが回転していません。
E8	ポンプモーター異常	ポンプモーターが回転していません。
E9	凝縮器サーミスター異常	凝縮器サーミスターの短絡、断線です。
EA	EEPROM 異常	マイコンボードの異常です。
EC	製氷サーミスター異常	製氷サーミスターの短絡、断線です。

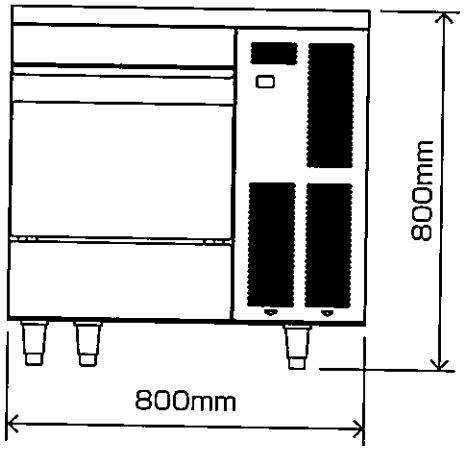
仕様

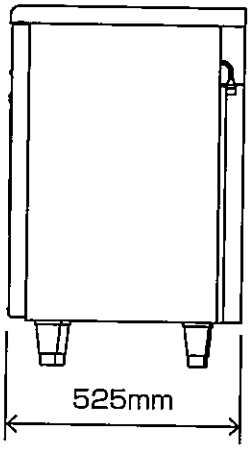
■ 仕様

この製品は、日本国内仕様です。

形名		IM-55TM-2 (55 キロタイプ)	IM-65TM-2 (65 キロタイプ)
製氷能力 (日産)	室温 20℃ 水温 15℃ 50/60Hz	約 54/58kg/d	約 62/68kg/d
	室温 30℃ 水温 25℃ 50/60Hz	約 44/48kg/d	約 52/56kg/d
1 回の製氷量		約 1.02kg（42 個）	
氷の大きさ		約 28 × 28 × 32mm 角氷	
最大ストック量 (自然落下時)		約 30（約 22）kg	
電源／容量		単相 100V 50/60Hz	
		0.71kVA（7.1A）	0.82kVA（8.2A）
消費電力（50/60Hz）		260/290W	325/340W
消費水量	室温 20℃ 水温 15℃ 50/60Hz	約 0.12/0.13㎥/d	約 0.14/0.15㎥/d
	室温 30℃ 水温 25℃ 50/60Hz	約 0.10/0.11㎥/d	約 0.12/0.13㎥/d
安全装置		漏電遮断器（過電流保護付）、アース線	
外装		ステンレス鋼板、亜鉛鋼板（後板、底板）	
外形寸法（幅×奥行×高さ）		800 × 525 × 800mm	
製品質量		54kg	55kg

■ 外形寸法





お手入れガイド

■ 全自動製氷機 (IM-55TM-2,65TM-2)

● 氷を取り出す場合は、清潔な手でスコップ（専用品）を使って取り出してください。

お願い

1 OFF(切) 電源を切って行ってください。

2 清潔な手で行ってください。

3 清潔なふきんを使用してください。

4 氷は清潔な別の容器に移して行ってください。

● 汚れがひどいときは、中性洗剤を含ませたふきんでふき取り、洗剤分を残さないでください。
● 洗剤分が残らないように、きれいな水でしっかりすすいでください。
● プラスチックは、40℃以上のお湯で洗わないでください。変形する場合があります。

ステンレスのお手入れ

ステンレスでも適切な手入れをしないとさびることがあります。
日常のお手入れは、やわらかい布にぬるま湯を含ませてふき取ってください。
ひどい汚れは、中性洗剤などを含ませてふき取り、洗剤分を残さないでください。
汚れがひどいときは都度行ってください。

使用する殺菌消毒剤

逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）

逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）はメーカー推奨の濃度に希釈したものをご使用ください。
汚れが付いているときは、中性洗剤などを含ませてふき取り、洗剤分が残っていない状態で逆性石けんをお使いください。

毎日

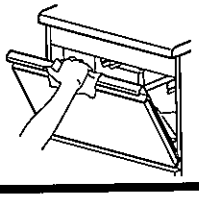
POINT 1 スコップ

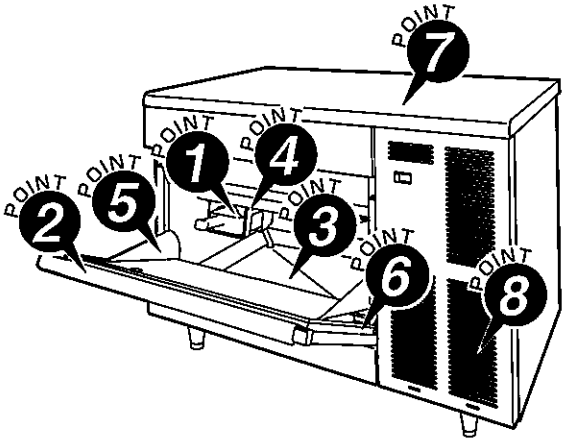
次亜塩素酸ソーダ

次亜塩素酸ソーダ（食品添加物用）を加えたぬるま湯（35～40℃）に3分以上つけ込み、その後、ソーダ分が残らないように水道水で洗い流してふきんでふき取ってください。
ただし、汚れているときは中性洗剤で洗い、水道水ですすいでから行ってください。

POINT 2 扉、とって

逆性石けん

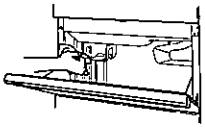




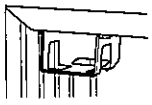
1週間に1回

逆性石けん

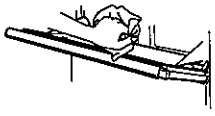
POINT 3 ストッカー



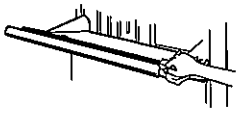
POINT 4 スコップホルダー



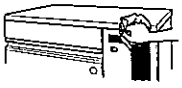
POINT 5 スロープ



POINT 6 扉裏板、ドアパッキン

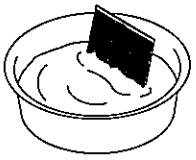


POINT 7 外装



1か月に2回

POINT 8 エアフィルター



＊汚れのひどいときは都度行ってください。
＊逆性石けん（塩化ベンザルコニウム）はホシザキ販売会社にお問い合わせください。
＊洗剤等を使用する場合は、その用法、用量および使用上の注意をよく読み、十分に理解してから使用してください。
＊このページはコピーし、製品の近くに貼り付けるなどして、必要なときにご利用ください。

据付工事説明

⚠警告

据付工事は専門業者がこの据付工事説明に従って実施すること

専門業者 据付工事完了後試運転を行い、異常がないことを確認し、取扱説明書に従ってお客様に使用方法・お手入れのしかたを説明してください。

もくじ

開梱・設置……30
- 開梱のしかた
- レッグの取り付け
- ガードの取り付け
- 固定テープの除去
- 保護シートの除去
- 点検
- 運搬のしかた
- 設置場所
- 設置のしかた
- 転倒防止措置

電気工事……34
- アース線の接続
- 電源ラインの接続

配管工事……35
- 給水工事のしかた
- 排水工事のしかた
- 給排水配管例
- ドレンホースの取り付け
- 配管工事終了後の確認

試運転……38
- 運転動作確認

開梱・設置

■ 開梱のしかた

⚠警告

開梱

開梱は、床が丈夫で平らなところで行うこと

不安定なところでは、製品転倒によるケガの原因になります。

保管、廃棄

梱包用の袋は、お子様の手の届かない場所に保管、または廃棄すること

梱包用の袋をかぶると、窒息するおそれがあります。

⚠注意

禁止

梱包用バンドを持って荷扱いしないこと

バンドが切れ、ケガの原因になります。

開梱

開梱は、二人以上で行うこと

ケガをする原因になります。

使用上の注意

- 製品を 45° 以上傾けないでください。故障の原因になります。

1 梱包用バンドを外して、箱の上部を開きます。

2 製品を取り出して、梱包用の袋を外します。

お知らせ

- 梱包用の袋は、保管または廃却してください。

■ レッグの取り付け

使用上の注意

- 製品を 45° 以上傾けないでください。圧縮機などの故障の原因になります。

1 レッグ（付属品）を取り出します。（☞ 10 ページ）

2 製氷機を後側に傾けて前側のレッグ（2 本）を取り付けます。

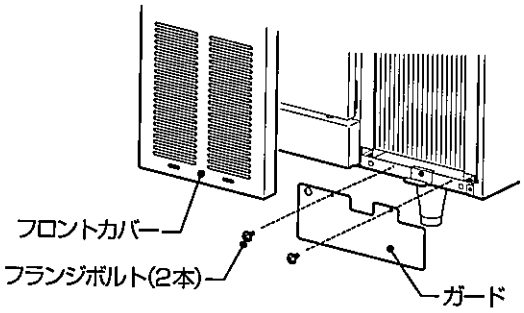
3 同じ要領で後側のレッグ（2 本）を取り付けます。

■ ガードの取り付け

フロントカバーを外して、ガード（付属品）をフランジボルト（2本）（付属品）で、本体の凝縮器前面下部に取り付けてください。

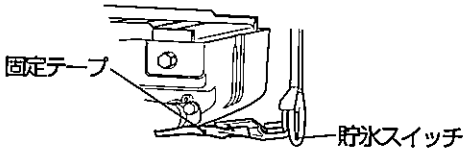
（使用上の注意）

- 冷却風の回り込み防止のため、必ず取り付けてください。



■ 固定テープの除去

外装や庫内に貼ってある固定テープをはがしてください。
ストッカー内にある貯氷スイッチや部品を固定しているテープを外してください。



■ 保護シートの除去

外装に貼ってある保護シートをはがしてください。そのままにしておくと、はがれなくなります。
直射日光に当てたときは、冷えてからはがしてください。

（お知らせ）

- ラベル類ははがさないでください。

■ 点検

1 フロントカバーなどの外周りや、内装部品に傷や破損がないことを点検します。

2 取扱説明書の「付属品」を見て、不足部品、傷、破損がないことを点検します。（☞ 10 ページ）

（お知らせ）

- 点検の結果、不足部品、傷、破損があれば、ホシザキ販売会社に連絡してください。

■ 運搬のしかた

⚠注意

移動時注意

製品を移動するときは、転倒に十分注意すること

ケガの原因になります。

禁止

製品を移動するときは、天板・扉を持たないこと

天板・扉が外れ、製品落下によるケガの原因になります。

作業

作業は二人以上で行うこと

ケガをする原因になります。

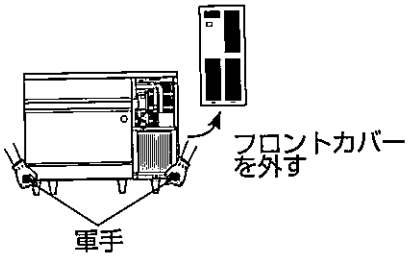
運搬

製品を移動するときは、軍手をして本体底面を持って行うこと

ケガの原因になります。

使用上の注意

- 製品を移動するときは、フロントカバーを外して本体底面を持って行ってください。
- 製品を 45° 以上傾けないでください。故障の原因になります。



■ 設置場所

⚠警告

屋外禁止

屋外に据え付けないこと

雨水のかかる場所に据え付けると、漏電、感電の原因になります。

強度確認

据え付けは、製品質量に十分に耐える場所に行うこと

強度不足の場所に設置すると、床の陥没などにより、ケガをしたり、建物に被害を与える原因になります。

湿気禁止

湿気の多いところや、水のかかりやすい場所に据え付けないこと

絶縁低下から漏電、感電の原因になります。

禁止

火気の近くに据え付けないこと

熱でプラスチックが溶けたりして、火災の原因となります。

禁止

可燃ガスの漏れるおそれがある場所に据え付けないこと

ガスが漏れ、製品の周囲にたまると、発火、爆発の原因になります。

⚠注意

水平設置

床面が丈夫で平らなところに水平になるように据え付けること

据え付けに不備があると、水漏れ、転倒、落下によるケガの原因になります。

設置条件

- 使用温度範囲は、周囲温度 1 ～ 35℃です。
- 直射日光の当たるところや、発熱器具 (コンロなど) のそばには、据え付けないでください。
  冷えが悪くなります。やむをえず直射日光の当たるところでは、必ず日除けを付けてください。
- 床がぬれても良いところに据え付けてください。
  湿度が高いときは、外装に付着した露が滴下し、床をぬらす原因になります。
- 凍結のおそれがある場所には据え付けないでください。周囲温度が 0℃以下になり、凍結のおそれがあるときは、必ず水抜きをしてください。給水管の破損から水漏れし、周囲（家財など）をぬらす原因になります。
- 風通しのよいところに吸込口や吹出口をふさがないように据え付けてください。
  冷却性能の低下や故障の原因になります。
- 本体設置スペースは、設置条件により若干異なることがありますので、10mm 程度余裕を取ってください。
  (給排気スペース・配管スペースなどは本体設置スペースとは別に確保が必要です)

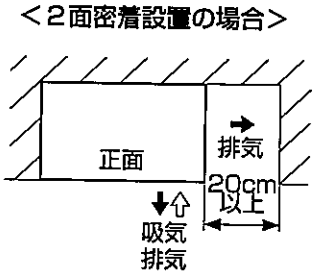
■ 設置のしかた

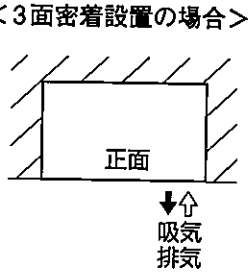
製品のすき間

壁や物と製品とのすき間は、下図のようにします。

使用上の注意

- すき間がないと製氷能力が低下し、電気代の無駄にもなります。またアフターサービスが困難になります。
- 2 面密着設置、3 面密着設置可能です。（＊ 3 面密着設置の場合、製氷能力がわずかに低下します）





水平に調整

⚠ 注 意

水平設置

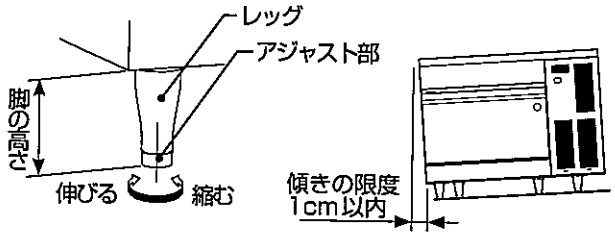
レッグの高さは、90 ～ 135mm の範囲で調節すること

135mm を超えて使用すると、アジャスト部が外れることがあり、思わぬケガの原因になります。

アジャスト部を回し、水平になるように高さを調節してください。

使用上の注意

- 据え付けに不備があると、水漏れ、転倒、落下によるケガの原因になります。



■ 転倒防止措置

転倒防止対策として、壁または床面に製品を固定してください。
お客様とご相談のうえ、設置場所に応じた転倒防止措置を行ってください。
固定のしかたについては、ホシザキ販売会社にご相談ください。

電気工事

⚠警告

元電源切

電気工事を始める前に、元電源を切ること
感電の原因になります。切った元電源には、この先で仕事をしているので電源を入れるな、という意味の標識を取り付けてください。

電気工事

電気工事は、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付工事説明に従って施工し、必ず専用回路（過負荷・短絡保護あり）を使用すること
電源回路不良、容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。

専用電源

専用電源を使用すること
電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用やタコ足配線をすると、感電、発熱、火災、また誤作動の原因になります。

アース工事

アース工事を行うこと
アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないこと
アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
（電気工事業者によるD種接地工事が必要）

禁止

電源コードを傷つけないこと
加工したり、引っ張ったり、たばねたり、また重い物を載せたり、はさみ込んだりすると、電源コードが破損し、感電、火災の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグや元電源など電気部品に触れたり、電源スイッチ（漏電遮断器）を操作しないこと
感電の原因になります。

電源プラグ

電源プラグは確実に差し込むこと
接続が不完全な場合は、感電、火災の原因になります。

⚠注意

電圧

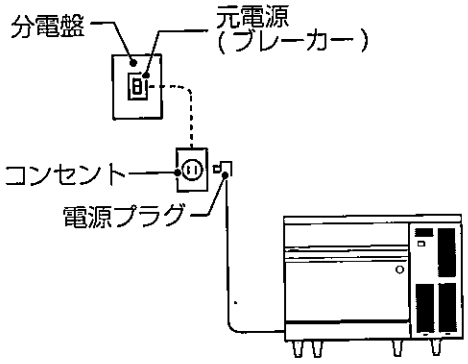
電源電圧は定格電圧の 90 ～ 110%の範囲内とすること
この範囲以外では発煙、発火、機械の故障や能力低下を招く原因になります。

■アース線の接続

アース線の接続を行ってください。
この製品にはアース線が取り付けてあります。
- 緑／黄色の電線

■電源ラインの接続

元電源（ブレーカー）の容量は、取扱説明書の「仕様」の電源容量に従ってください。（☞ 27 ページ）



配管工事

⚠注意

給排水工事

給排水工事を確実に行うこと

給排水の水漏れから周囲（家財など）をぬらす原因になります。

禁止

凍結のおそれがある場所には据え付けないこと

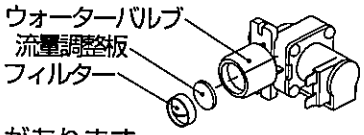
周囲温度が0℃以下になり、凍結のおそれがあるときは、必ず水抜きをしてください。
給水管の破損から水漏れし、周囲（家財など）をぬらす原因になります。

配管材

給水配管は水道法に適合しているフレキシブル管、硬質塩化ビニル管、硬質塩化ビニルライニング鋼管などをお使いください。
排水管は、硬質塩化ビニール管などをお使いください。

配管類の洗浄

配管類は接続する前に十分洗浄してください。



（お知らせ）

- 配管類には、切り粉、切削油、異物などが付着しています。
  これらが混入すると、フィルターや製品内部のウォーターバルブが詰まることがあります。
  ウォーターバルブのフィルターを外す場合、流量調整板が外れやすくなりますのでご注意ください。

配管接続部

配管類はシール材、シール用テープ、パッキンなどを使用して、水漏れがないように接続してください。
シール材は配管が詰まったり、水に臭いがついたりするようなものは使わないでください。

■給水工事のしかた

給水管について

- 給水元には必ず止水・保守用の元栓と給水バルブを取り付けてください。
- 水抜きのための水抜きバルブを取り付けてください。
- 管路の途中でエアポケットができないように配管してください。

使用水

⚠衛生

水道水

水道水を使用すること

水道水以外を使用すると、さび・配管詰まりや健康障害の原因になります。

（お知らせ）

- 給水圧は0.05～0.78MPa、水温は5～30℃の範囲内で使用してください。
- 給水圧が0.78MPaを超える場合には、氷穴が大きく不完全な氷ができたり、給水しないことがあります。
  この場合は減圧弁を取り付けてください。
- 水道水を使用している場合でも、水質によっては製品内水経路にスケールが付着して製氷量が少なくなったり、故障の原因になります。
  水質の目安としては、「硬度：50mg/L、シリカ：30mg/L」以下の水道水を使用してください。
  上記目安値を超える場合は、水質に適した水処理器の取り付けが必要となります。水処理専用業者またはホシザキ販売会社に相談してください。

■ 排水工事のしかた

(使用上の注意)

- 複数の製品が設置されている場合、排水管は各々の製品から単独で配管してください。排水管を集中させると、排水の逆流により、製品から水漏れしたり、製品故障の原因になります。

(お知らせ)

- 排水管はできるだけ短く、曲がりが少なく、下げ勾配を持たせ、途中に排水口より高い部分ができないようにしてください。
- 逆流を防ぐため、排水管は下水管に直結しないでください。
  必ず、排水口空間を設けて間接排水してください。
- 直接、床に排水してから排水溝に流し込むことは絶対に避けてください。床のゴミなどを巻き込んで排水溝を詰まらせたり、思わぬ方向に流れる原因となります。
- 排水配管は十分な排水能力を確保してください。部品が故障した場合は、連続的に排水することがあります。十分な排水能力がない場合には、水が床に漏れ、周囲(家財など)をぬらす原因になります。

■ 給排水配管例

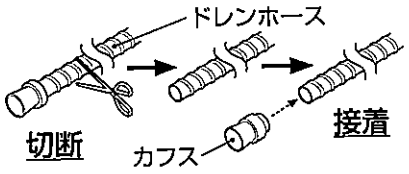
下図のような配管で行ってください。

(使用上の注意)

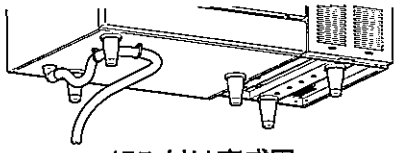
- 水抜きバルブは製氷機と元栓の間の最も低い位置で、製氷機本体底面より下の位置になるところに下向きに取り付けてください。

(お知らせ)

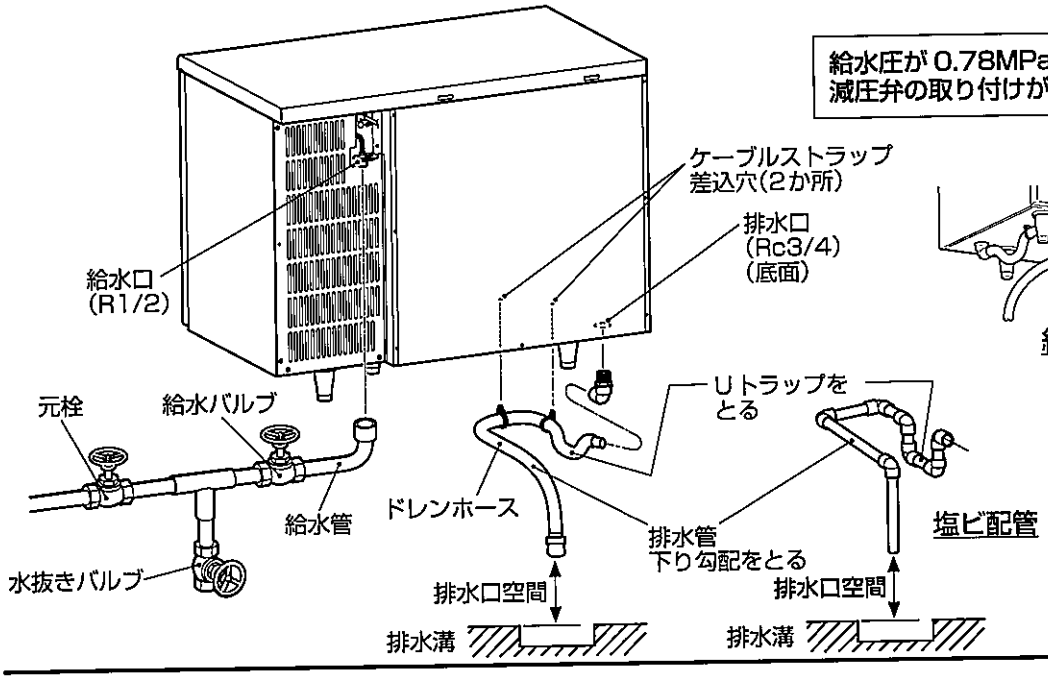
- 給水工事を確実に行ってください。水漏れから周囲(家財など)をぬらす原因になります。
- 配管類は、すべて現地手配になります。
- 各バルブは操作しやすい位置に取り付けてください。
- 設置する場所の排水溝の位置により、ドレンホースが長い場合は、下げ勾配がとれるようにドレンホースを切断して長さを調整してください。カフス(付属品)をドレンホースの切断した先端に、配管用接着剤(塩ビ用)で接着して取り付けてください。



給水圧が 0.78MPa を超える場合は、減圧弁の取り付けが必要となります。



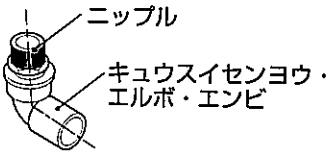
組み付け完成図



■ ドレンホースの取り付け

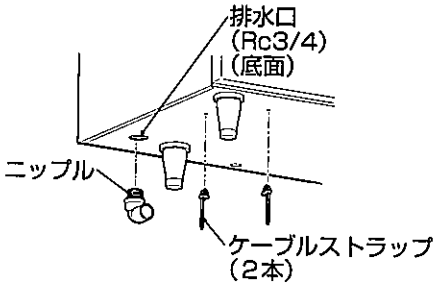
ドレンホース（付属品）を本体底面の排水口に取り付けてください。
付属品のドレンホースを使わずに塩ビ配管で排水配管をする場合は、「■給排水配管例」を参照にしてください。（☞ 36 ページ）

1 ニップル（付属品）とキュウスイセンヨウ・エルボ・エンビ（付属品）をシール用テープを使用して組み付けます。

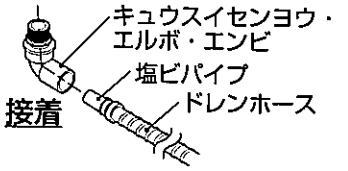


2 組み付けた付属品のニップル部を本体底面の排水口に、シール用テープを使用して取り付けます。

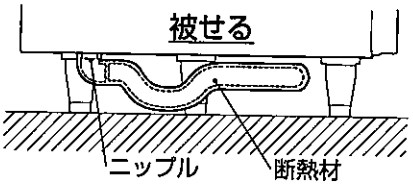
3 ケーブルストラップ（2 本）（付属品）を本体底面の固定用穴に差し込みます。



4 本体底面に取り付けたキュウスイセンヨウ・エルボ・エンビ側に、ドレンホース（付属品）の塩ビパイプ側を配管用接着剤（塩ビ用）で接着します。



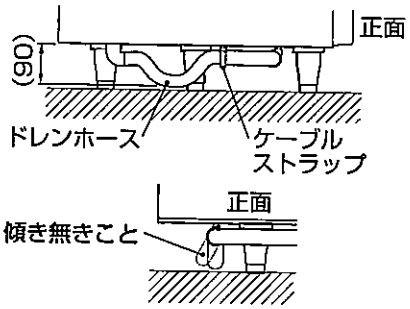
5 ドレンホースに結露防止のため、厚み 10mm 以上の断熱材（市販品）を排水口に取り付けたニップル部のところから被せます。
（断熱材推奨品：20mm 用保温チューブ、20mm 用エルボ保温チューブ）



6 断熱材を被せたドレンホースをケーブルストラップで固定し、「■給排水配管例（☞ 36 ページ）」を参考に図のように U トラップが取れるように固定して取り付けます。

（使用上の注意）

- 結露防止のために必ず断熱をしてください。



■ 配管工事終了後の確認

水抜きバルブを閉じたあと、元栓と給水バルブを開け、配管接続部からの水漏れがないことを確認してください。
「給排水管の点検」を参照してください。（☞ 21 ページ）

試運転

■ 運転動作確認

据付工事終了後、次の運転動作確認を行ってください。

1 電源・電圧を確認します。

※単相 100V の専用コンセントを使用していますか？

2 アース線を接続します。

※アース線は確実に接続されていますか？

3 電源プラグをコンセントに差し込みます。

※電源プラグは確実に差し込まれていますか？

4 水抜きバルブを閉め、元栓と給水バルブを開きます。

※給水されていますか？

※給水配管、排水配管の水漏れはありませんか？

5 電源スイッチ（漏電遮断器）を「ON（入）」にして運転を確認します。

※3 分後に運転が開始されましたか？

6 しばらく待ってから（約 20 ～ 30 分）氷の出来を確認します。

※氷がストッカーに落下しましたか？

※異常音はありませんか？

※氷の出来は正常ですか？

7 操作説明をします。

※お客様に取り扱い説明をしましたか？

8 試運転時の氷を捨て、ストッカー内の掃除をします。

※ストッカー内は掃除しましたか？

9 説明書をお客様に渡します。

※取扱・据付工事説明書をお客様に渡しましたか？

返却時の注意点

返却前に給排水口の水抜きを行ってください。水抜きを行わず製氷機が故障してしまった場合、修理代をいただきます。

返却時の梱包方法		
5		ー フロントカバーを外してください。 ※フロントカバーの取り外しについては 　メーカー取扱説明書 13 ページをご覧ください。
6		･扉を開けてストッカー内右側奥にある貯氷スイッチのレバーを右に約 60 秒間押します。 ･表示パネル部に「貯氷完了」表示が出たら、電源スイッチをOFF にします。
7		･庫内を空にしてください。 ･スコップを製氷機庫内にしまってください。 ※水や氷が入ったまま返却されますと、配送中に漏れた水で、他のお荷物を濡らしてしまう原因になります。配送中に他のお荷物に損害があった場合、お客様に弁償していただく場合がございます。

8		･足踏みポンプの先端を給水口に差し込んでください。
9		･足踏みポンプで約 1 分間、給水口から空気を送り込んでください。 ※この際、足踏みポンプの先端を給水口に差し込み続けてください。
10		ー庫内を斜めにして排水口内の水をだしてください。
11		ー水が出てこなくなったら元に戻してください。

12		·リセットボタンを押し、約 40 秒後に水が開いたら電源スイッチをOFF にしてください。
13		·電源プラグを抜いて下さい。
14		– フロントカバーを取り付けてください。
15		– 排水口（底面）にキャップを取り付けて下さい。 ※水や氷が入ったまま返却されますと、配送中に漏れた水で、他のお荷物を濡らしてしまう原因になります。配送中に他のお荷物に損害があった場合、お客様に弁償していただく場合がございます。

製氷機を箱に梱包する

16		– 製氷機を下箱の上に乗せて下さい。 – 扉が開かないように左写真の向きに乗せてください。 – クッションを挟んでください
18		･エアーポンプを庫内に入れてください。
19		･マイナスドライバー、ホースバンド×３を　ビニール袋等に入れる　取説と一緒に備品ケースに入れ本体の上において下さい ※マイナスドライバー、ホースバンドを庫内に入れると庫内が傷ついてしまうので、やめてください。 マイナスドライバー、ホースバンドを庫内に入れて庫内が傷ついたり破損した場合、修理 – 代をいただきます。
		箱を被せて完成です

21	▼返却用の伝票を指定の位置に貼り付けてください。 　返却用伝票は弊社にてご用意させていただきます。 　梱包の箱に貼り付けてあります。	

お届け時の伝票の下にある赤い伝票が
返却用の伝票です。

据付工事を水道会社に依頼した場合の返却方法
（フレキ管、塩化ビ管等で接続した場合）

事前に水道会社に撤去工事のご依頼をお願いします。その際には製氷機の水抜き依頼も一緒に行ってください。

水抜きの方法につきましては、メーカー取扱説明書の 17 ページに記載しておりますのでご依頼された水道会社に水抜きの方法　をお見せし、水抜きをご依頼してください。

ニップルを取り外した場合は、箱に入れて返却してください。

梱包時 PP バンドの使用方法

Ⓒ

輪をつくる。

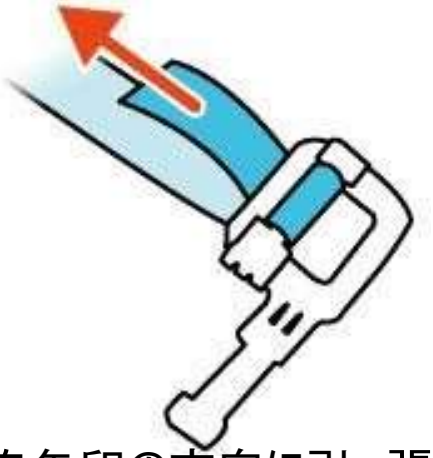
Ⓒ

つくった輪をストッパーに通す。

Ⓒ

１本の足を輪の中に折りたたむ。

④

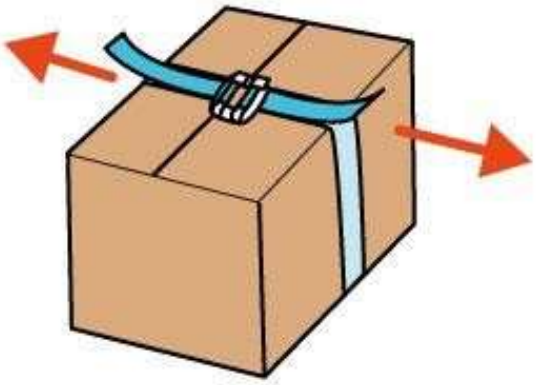


バンドを矢印の方向に引っ張る。

Ⓒ

荷物に回したもう片方の
バンドも同様に通す。

⑥



ひもを両端に引っ張り、
しっかり締める。

※手順を参考にしても分からない場合は、緊急連絡先(080-5643-7181)にご連絡ください。